



一体ボディ未塗装キット・旧型国電シリーズ

別売アイテム

- 台車 No.5008:DT20
- 動力ユニット No.5503:DT20
- パンタグラフ No.5802:PS13N
- 車両マーク No.6302
- コラスモーター動力ユニット No.5716:20m 長軸距
- 動力台車枠 床下機器セット No.8492:A-09

カラーガイド

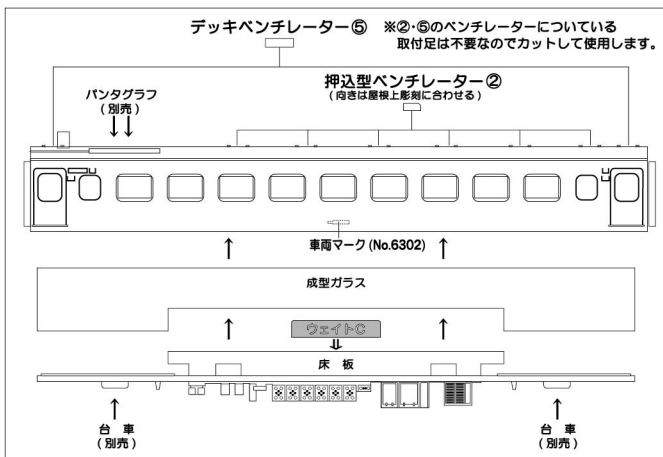
- ボディ ③+⑬ ※
- Hゴム ⑨
- 屋根 ④
- 屋上機器 ⑨
- 床下 ⑩

※ボディの塗色は「車両ガイド」項もご参照ください。

ドリル刃ガイド

1.2mm: パンタグラフ取付穴

※数字は直径です。



ボディの組み立て

あらかじめ表面の油分やホコリ等を中性洗剤でよく洗浄し、十分すすいだのちに完全に乾燥させてから塗装します。パンタグラフやベンチレーターの取り付け穴がきつい場合があるので、念のため「ドリル刃ガイド」に記載のドリル刃でさらっておくと良いでしょう。車体の塗装が済んだら別途塗装しておいたベンチレーターを取り付けますが、取付脚が長いと動力ユニットと干渉するほか、窓から見えて気になるようであれば適宜短くカットしてください。

窓ガラスは枠状の成型品なので車体裾を少し広げるようにしながら押し込み、床板をパテンとはめて保持出来ます。床板上面にはウェイトをゴム系接着剤で固定しておきます。

別売のパンタグラフ (No.5802/PS13N) と台車 (No.5008/DT20) はそのまま取付出来ます。動力ユニット (No.5503/DT20) を取付ける場合は動力ユニットに付属の両面テープを利用して固定してください。コラスモーター動力ユニット (No.5716/20m級長軸距) を使用する場合は動力台車枠・床下機器セット (No.8492/A-09) と組み合わせてご利用ください。

車両ガイド

モハ80は初めて製作された中間電動車で、湘南型80系の中核をなす形式です。客車と同様の客室構造や、2色塗りツートンカラーを初めて採用した車種でもあります。0番台からシートピッチを拡大した200番台よりさらに、300番台では1人あたりの座席幅が拡大されてますます中長距離用電車としての改良が加えられました。シルヘッダーがなくなって洗練された車体と、角に丸みの付いた大きなアルミサッシ窓は、先頭車の前面デザインとともに我が国の車両設計に大きな影響を与えたことは、あまりにも有名です。

車体の塗装は言うまでもない「湘南色」で、黄かん色③と緑2号⑬の塗り分けですが、吹田工場による岡山地区向けのみは、塗り分け線が異なるため要注意です。屋根はダークグレー ④ 屋上機器がねずみ色1号⑨、床下機器は黒色⑩。この300番台ではいわゆる「関西急電色」は存在せず、モハ80300に至っては例外なく全車が湘南色に終始しました。

編成例

